

琉大法科大学院が健闘

6人合格、全国21位

県出身5人 県内銀行支援も奏功

琉球大学の法科大学院(LS)が健闘している。2015年度司法試験では6人の合格者を、設置9年で48人となった。15年度の合格率17.1%は設置9年中最も高かった。6人中5人は県出身で、3人は琉大法文学部の卒業生だ。志望者の減少で全国的にLSの統廃合や募集停止が続く中、琉大関係者は「小規模校でも成果を挙げ、沖縄で法曹養成の機会を提供するという設立の理念を実現している」と話している。



琉大法科大学院の司法試験合格者祝賀会。6人が周囲の支えに感謝した=27日、那覇市のANAクラウンプラザホテル神城ハービー

9月27日に那覇市内で行われた祝賀会で合格者は「先生方や仲間、沖縄弁護士会、県内企業などに多くに支えられた」と感謝し、充実した教育内容をうかがわれた。司法試験の合格者上位の十数校は旧帝大や有力私立大が占め、地方国立大は苦戦している。文部科学省は本年度から合格率や定員を減らすなど、LSの競争を激化させている。琉大LSは前年比7割とされたが、独自の取り組みが評価される「加算プログラム」で

15%増を勝ち取り、前年比85%まで押し上げた。10%以上の加算を認められたのは全国で14校。県外からの支援もある。琉大LS設立以来、沖縄銀行は「リカル・アシスタント」として受験生を雇用し、試験勉強に専念できる

制度を継続している。琉球銀行も本年度から同様の「リカル・サポート」を始め、ともに採用された受験生の合格率は5割7割にもなる。県内外の企業家や弁護士からの給付型奨学金もあり、学生らは「精神的にも支えられた」と話す。

県内でも「単位認定は非常に厳しく、学外とも連携してアクティブラーニング(能動的な学習)を進めている」として受験生を雇用する。他大学のモデルにもなる「大城肇学長」と評

師は高く、授業料減免などの制度を充実させる。吉崎敦彦研究科長は「沖縄で生まれ育った人が沖縄の大学で法曹を目指すことを知ってほしい」とLSの意義を語り、さらなる教育改善に意欲を見せた。

高山さん ママ2人1発合格

本田さん

ことし6人の司法試験合格者を出した琉球大学の法科大学院(LS)。うち2人は子育て中の母親だ。共に県外で社会人経験し、地元で法曹を志し、時間的制約も大きい中で「発合格を遂げた。年齢離れた同級生も多い中、熱心な先生、仲間に支えられた」と口をそろえた。2人とも県内で弁護士活動を目指す。



子育てをしながら司法試験に一発合格した本田祥子さん(左)と息子の有唯君(左前)、高山加奈子さん(右)と息子の理太郎君=27日、那覇市のANAクラウンプラザホテル神城ハービー

で学んだことの集大成、授業でしっかりと学ばせたい。短い勉強時間でも受かる人はいると自らを励ました。高山さんは「20代より体力や記憶力が落ちるが、事実を法律的に評価する力は社会人経験が生きる。限られた時間をよりよく活用し、領も仕事をすることで身に付けた」と、強みを最大限に生かして乗り切った。2人は今後、約1年の司法修習を経て弁護士として活動し始める。年齢や子育て

・前研究科長は「大変な勉強を激々となし好成績を保った」とたたえた。

高山さん(35)と本田祥子さん(35)は同、東京の中央省庁に単身赴任していた。高山さんは、沖縄の家族と暮らしながら試験を準備する法曹を志し、琉大LSへ入った。シングルマザーとして小学1年の息子有唯君を養育していた本田さんは、沖縄のため奮闘する同級生らの姿に刺激を受け以前からの夢に踏み出した。司法試験では睡眠以外の時間のほぼ全てを勉強に費やす人も多いという。圧倒的に足りない時間を、本田さんは「試験は法科大学院

で学んだことの集大成、授業でしっかりと学ばせたい。短い勉強時間でも受かる人はいると自らを励ました。高山さんは「20代より体力や記憶力が落ちるが、事実を法律的に評価する力は社会人経験が生きる。限られた時間をよりよく活用し、領も仕事をすることで身に付けた」と、強みを最大限に生かして乗り切った。2人は今後、約1年の司法修習を経て弁護士として活動し始める。年齢や子育て

もがいて不安を感じた。本田さんは「子育ては大変な仕事だが、他にやりたいことがあれば両立させてほしい。」「求めるのは当然だ。」「前(S)で、胸を張って生きていきたい。」「高山さんは「子育ても100%自分より大切な存在がいるからこぞ頑張る。それそれの環境で、みんなが好きなことに挑戦できればいい」と前を見据えた。指導してきた渡名嘉庸安